

any

ars nova yamaguchi [エニー]

Vol. **63**
07-08
WINTER
[DEC-FEB]

TOPICS

研ぎ澄まされた
美しさと
皮膚感覚を
あわせもつ

ヤン・ファール「死の天使」

THEATER



PHOTO:Wongce Bergmann

研ぎ澄まされた美しさと 皮膚感覚をあわせもつ



ウィリアム・フォーサイス
PHOTO:Wongce Bergmann

肉体が持つ生々しい皮膚感覚や身体性を、ダンスや美術作品として、衝撃的に提示してきたヤン・ファールブル。昨年、埼玉で上演された「わたしは血」に続く舞台作品として、今冬山口での公開が決まった「死の天使」は、限定100席の濃密な空間で上演される特別な作品です。ポップアートの巨匠アンディー・ウォーホルの銃撃のエピソードから発想されたという本作は、モダン・ダンスの言語を解体・再構築したダンサー／振付家のウィリアム・フォーサイスが映像で登場することで大きな注目を集めています。ヤン・ファールブル著『わたしは血』を邦訳するなど、これまでも彼の作品との関わりが深い、宇野邦一氏がその魅力に迫ります。



PHOTO:Stefan Van Fleteren

ヤン・ファールブル Jan Fabre

美術家。振付家。詩人。1958年、ベルギー・アントワープ生まれ。『ファールブル昆虫記』のアンリ・ファールブルを曾祖父に持つ。アントワープ王立美術アカデミーで学んだ後、アーティストとしての活動を、演劇と美術の境界を横断する広範な領域にわたり展開。ベルギーのみならず海外でも最も多彩な前衛アーティストとして知られる。80年代から一貫して人間の肉体を探索の対象とし、アヴィニヨン演劇祭で発表された「わたしは血」(01年)や、王立モネ劇場で上演された「タイホイザー」(04年)は国際的な評価を獲得した。

ヤン・ファール「死の天使」

2007年2月16日(土) 19:00開演

17日(日) 14:00開演 ※各30分前開場

会場:山口情報芸術センター スタジオA

[チケット情報] any会員先行予約 12月8日(土)~

一般発売 12月15日(土)~

[料金] 全席自由(税込) ※各日限定100席

前売 一般 ¥2,000 any会員/特別割引 ¥1,800

当日 ¥2,300

[構成・演出・テキスト] ヤン・ファール

[振付] ヤン・ファール、イヴァナ・ヨゼク

[出演] イヴァナ・ヨゼク

[映像出演] ウィリアム・フォーサイス

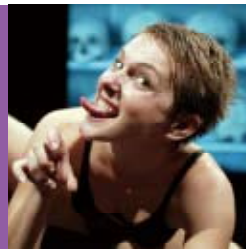


PHOTO:Wong Bergmann

「死の遠近法」 宇野邦一

ヤン・ファールみずから書いた「死の天使」というテキストの末尾には、「両性具有的存在アンディ・ウォーホルから着想した」と記してある。冒頭に「私は死から舞い戻った」とあるのは、ウォーホルが「全男性抹殺団」というグループのメンバーだった女性に狙撃されて一命をとりとめたときのことなのだろう。もちろんこのエピソードだけでウォーホルは、十分に「死の天使」である。彼のポップアートがしたこととは、すでに虚像であったスターたちや、コカコーラのイメージを、シルクスクリーンに転写して、さらに虚像にすることであり、彼自身もスーパースターになるにつれて〈虚像の虚像〉になった。これらの虚像にまぎれこんだ電気椅子や、死亡事故現場のイメージの冷ややかな感触は忘れられない。彼の作品の中で、あらゆるものは虚像の虚像として死んでしまうかのようだ。彼の作品の奇妙な明るさは、たしかに死のかがやきなのだ。

しかしヤン・ファールはそういうウォーホルという神話的アーティストの両性具有的肉体のほうに注目して、そこから生々しい2つの肉体を出現させた。ひとは2つのスクリーンに現われる裸のフォーサイスであり、もうひとは小さな舞台のうえでうごめく女性ダンサーである。フォーサイスはまるで自分の部屋からそのまま出てきたように、妙に自然体でウォーホルを演じるが、このウォーホルはときどきとても繊細なダンスを踊る。女のダンサーのほうは、エネルギーに体をくねらせ、マイクで強調した呻きや喘ぎとともに、やや獣めいて踊る。この2つの(あるいは3つの)分身のからみあい、まったくファール独自の創造である。

ヤン・ファールの芸術の最大のテーマは、まぎれもなく〈身体〉である。「わたしは血」では、身体の中に閉じられたままの血を、そして血管を外部に開き、新しい身体と生をつくりだそうという、少々無謀な試みがテーマであった。そしてこの試みは、死というもうひとつの〈テーマ〉と切り離せない。ベルギー

の王宮に無数の玉虫の羽(屍骸)をはりつめるようなことをしたファールには、死に関するある独特な遠近法があるような気がする。ファールの表現の力は、実はそこからくるのではないか。

スクリーンの中のフォーサイスは、おそらくウォーホルの死霊を演じている。この映像と生身のダンサーとの対話は、今まで見たことのない何かである。



「わたしは血」(彩の国さいたま芸術劇場での公演より) PHOTO:Arnold Groeschel



宇野邦一 Uno Kuniichi

1948年鳥根県松江市生まれ。京都大学、バリ第8大学で学び、アルト、ベケット、ドゥルーズなどを主なテーマとして批評的エッセーを書いてきた。現在は立教大学現代心理学部映像身体学科教授。著書に『アルト 思考と身体』、『他者論序説』、『ドゥルーズ 流動の哲学』、『反歴史論』、『破局と渦の考察』、『〈単なる生〉の哲学』など、訳書にドゥルーズ『フーコー』、『毀』、ドゥルーズ/ガタリ『アンチ・オイディプス』、ベケット『伴侶』、『見方が言い合い』、ヤン・ファール『わたしは血』などがある。

THEATER INFORMATION

「DANCE×MUSIC! ～振付家と音楽家の新たな試み～」

ダンス・バイ・ミュージック

2008年1月27日(日) 13:30開場/14:00開演
会場:山口情報芸術センター スタジオB

既存の音楽を使用するのではなく、“今”を生きる振付家と音楽家が出会い、“今”にしかできない作品を共同で創造するプロジェクト「DANCE×MUSIC!」。

今回は、舞踏出身の身体性を生かした独自の動きを開発し、個の存在を追求する東京の振付家/ダンサーの鈴木ユキオと、秋吉台国際芸術村オープニングのコンサートマスターの1人を務め、現代音楽の幅広いレパートリーを持つ島根のヴァイオリン奏者 辺見康孝がソロとソロでぶつかります。もう1組は、パワフルかつ複雑に構成されたダンスが持ち味の女性5人による松山のカンパニー yummydance (ヤミーダンス)に、キーボード・クラリネット・ベース・パーカッションで編成された大阪のトウヤマタケオ楽団が挑みます。

これら2組が秋吉台国際芸術村と松山でそれぞれ合宿しながら作品を制作し、山口と京都で公開します。合わせてフォーラムも開催。それぞれのDANCE×MUSICのアプローチをお楽しみに!

[チケット情報] 一般発売 12月1日(土)～

[料金] 全席自由(税込)

前売 一般 ¥1,500

会員 (any・フレンズネット) / 特別割引 ¥1,200

当日 ¥1,800

Love vibration

SOLO vs SOLO

[振付・出演] 鈴木ユキオ

[作曲・演奏] 辺見康孝



PHOTO: Takayoshi Susuki



PHOTO: 矢島江里

手のひらからマウンテン

COMPANY vs COMPANY

[振付・出演] yummydance (宇都宮忍、戒田美由紀、合田緑、高橋砂織、得居幸)

[作曲・演奏] トウヤマタケオ楽団 (トウヤマタケオ / keyboard、藪本浩一郎 / clarinet、清水恒輔 / bass、ワタンベ / percussion)



PHOTO: 一美

関連
イベント

フォーラム

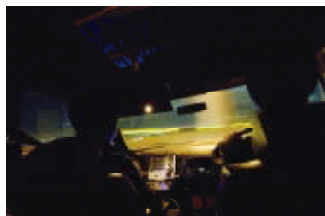
「ダンス作品と音楽の新たな関係性を探る」(公演終了後に開催)

[出演] 桜井圭介、加藤種男(アサヒビール芸術文化財団)、公演出演者

ログズギャラリー

「ガソリンミュージック& クルージング in 山口」展示

2008年2月(予定)～未定 10:00～20:00 入場無料
会場:山口情報芸術センター BIT THINGS



写真提供: NAMURA ART MEETING 実行委員会
PHOTO: 権永一夫

「ガソリンミュージック&クルージング」実施時と、移動や下見の過程で、車内に搭載したGPS1台とビデオカメラ2台で旅の記録をおこなっているログズギャラリー。今回、「ガソリンミュージック&クルージング in 山口」に際して、山口滞在中に記録されるGPSや映像データを素材とする映像インスタレーション作品を制作・展示します。

YCAM パフォーマンス ライブ #2 「ガソリンミュージック&クルージング in 山口」

浜地靖彦、中瀬由央のユニット「ログズギャラリー」による、車内に高出力の音響システムを搭載した車で音を加工し聞かせる1時間のドライブ作品を12月8日(土)～16日(日)の間、県内で実施。アーティストの視点で切り取られたドライブルートで、その都市の風景を、視覚と聴覚はもちろん全身で体験する機会を創出します。

- チケットのご予約・お問い合わせは中の折込ページをご覧ください。
- いずれの公演も当日券は各種割引の対象外となります。
- 特別割引は、青少年(18歳未満)、シニア(65歳以上)、障がい者及び同行の介護者1名が対象となります。
- 特に記載のない場合は託児サービスあり。詳細は中の折込ページをご覧ください。

TOKYO MIXED STYLE

「STREET DANCE+DORAVIDEO」

ドラびでお

2008年1月19日(土) 17:00開場/17:30開演

会場:山口情報芸術センター ホワイエ

[出演] はむつんサーブ、ひとりできるもん、ISOPP&O-HASHI、ドラびでお

料金
無料



はむつんサーブ

りきっちょ(=小野寺理樹)と、だーよし(=吉田悠紀)によるユニット。スロームーション、コマ送り、ムーンウォークに、独自のムーブを主体としたアニメーションスタイルを加え、完全オリジナルの曲で多数のコンテストに入賞。海外では、ソウル舞台芸術見本市やブレイクダンス世界大会「Battle of the Year」(ドイツ)等に参加。



ひとりできるもん

日本テレビのダンス番組「少年チャンプル」において、人気ダンサーランキング13週連続1位を獲得した「謎の覆面ダンサー」。05年にはソロDVDを約1万枚売り上げ、その確かな技術とコミカルなパフォーマンスで幅広いファンからの支持を得ている。06年には、ソウル舞台芸術見本市に出演。また、ココロのCMにも起用され、話題を呼ぶ。



ISOPP&O-HASHI

Perfect Combustionを率い、ブレイクダンスとヒューマンビートボックスを合体させたクリエイター-ISOPPと、Yokohama City Breakersのリーダーでパワームーブを得意とするO-HASHIのユニット。「Battle of the Year JAPAN」(日本)、「total session」(フランス)、「BEATRONIC JAPAN,ASIA」(日本)など国内外の大会で数々の優勝歴を誇る。



ドラびでお

プログラマー伊藤隆之とドラマー一楽儀光によるユニット。ドラムセットをビデオデッキに見立てて映像をコントロールする「ドラムによるVJ」ともいうべきスタイルでライブパフォーマンスをおこなう。その激しいドラミングとVJが話題を呼び、世界中のロックフェス、ジャズフェス、メディアアートフェス、映画祭、芸術祭に参加。

NPO法人こどもステーション山口共催事業

オペラシアターこんにやく座

「セロ弾きのゴーシュ」

2007年12月24日(月・祝) 14:30開場/15:00開演

会場:山口情報芸術センター スタジオA

オペラシアターこんにやく座がご存じ宮澤賢治の代表作「セロ弾きのゴーシュ」を音楽劇化。1986年の初演以来、国内各地を始めヨーロッパやアジアなど世界各国で800回を超える公演を重ね、子ども達や初めて演劇を見る方にも広く親しまれてきました。6人の歌い手と一台のピアノで宮澤賢治の世界を豊かに物語ります。クリスマスイブの一日にどうぞお楽しみください。

[チケット情報] 好評発売中

[料金] 全席指定(税込)

一般 ¥2,300 any会員/特別割引 ¥2,000

高校生以下 ¥1,200

[原作] 宮澤賢治

[作曲] 林光

[演出] 加藤直

[出演] オペラシアターこんにやく座

※関連上映あり(詳しくはCINEMAページをご覧ください)



Illustration:長谷川義史

「true/本当のこと」 in 金沢、横浜

【金沢】2007年12月8日(土)・9日(日)

会場:金沢21世紀美術館(シアター21) <TEL. 076-220-2811>

【横浜】2007年12月14日(金)~16日(日)

会場:横浜赤レンガ倉庫1号館(3Fホール) <TEL. 045-211-1515>

※料金や開演時間等は会場により異なります。詳細は各会場にお問い合わせください。

LED照明、振動子、音、映像、そしてダンス、衣裳と、各分野で注目の錚々たるアーティストがこの夏山口に集結し、1ヶ月以上もの長期に渡る滞在制作を経て、去る9月1日に、最新鋭のメディアテクノロジーを駆使した新作ダンス公演「true/本当のこと」を発表。多くの反響を呼んだ本作品は、今後もバージョンアップを続けながら世界各地でも公開される予定です。国内では12月に金沢と横浜での上演が決定! お近くに行かれる際にはぜひご覧ください。



THEATER INFORMATION



ピーコ

1945年横浜生まれ。「おすぎとピーコ」として75年ラジオにてデビュー。以後、ラジオ、テレビ、講演・イベント出演、雑誌・新聞での執筆活動など多岐にわたり活動している。ファッションジャーナリストとしての服飾評論はもとより、バリ祭出演やシャンソン歌手としても活躍の幅を広げる。著書に「片目を失ってみてきたもの」、「ピーコ伝」(文春文庫)、作家の阿川佐和子との対談を収めた「ピーコとサワコ」(文藝春秋)、「センスを磨く心をみがく」(幻冬舎)などがある。

「ピーコ トークショー」

2008年3月15日(土) 15:30開場/16:00開演 会場:大ホール

片目を失ってみてきたもの

ファッションジャーナリストとして、またテレビやラジオに出演しタレントとして、また最近ではシャンソン歌手としても幅広く活躍する“ピーコ”によるトークショー。テレビでは辛口トークが有名だが、40代半ばでガンの宣告を受け、左目を摘出。死と向き合うなかで実感した友達や家族の大切さと、いままで気付かなかった足元の小さな幸福。

様々な思いを経験し、改めていままでとは異なる人生観をもつことになった彼が語る言葉から、愛とは何か、生きることは何かという本質的な問いかけが見えてくるトークショーです。

[チケット情報] any会員先行予約 1月12日(土)～ [料金] 全席指定(税込)
一般発売 1月19日(土)～ 前売 一般 ¥2,000 any会員 ¥1,700
当日 ¥2,500

山口の皆さんへ

山口県や山口市に私はなぜか御縁が薄かったようで、この何年間いや10年以上振り返って観ても何った事がないんじゃないかしら?

おすぎは若い時にTVドラマの制作会社の下積みスタッフだった頃、何度かロケ等でお邪魔していたようでした。「山口は良いところが沢山あるのよ。緑や川もきれいよ!」なんて聞いたことがあります。

山や水が美しいところに住んでいる人達は心穏やかに和やかな気分になれるのです。そんな方々の前で、私の話すことが似合っているか心配ですけど、眼の中の癌で左眼を失ってから20年近くになる私の経験をお話させていただきます。どうぞ皆様に私の話が上手く伝わりますように! ピーコ

「第20回山口市おかあさんコーラス演奏会」

2007年12月2日(日) 13:00～16:00 会場:大ホール

山口市内で活動する女性合唱団12団体が、日頃の練習の成果を披露する毎年恒例の演奏会。今年は20回目を記念し、あの名曲「大地讃頌」を、一般公募で集まった300人を超える市民合唱団が、作曲家である佐藤真氏の指揮に合せて大合唱します。お母さんコーラスの枠を超えた内容にご期待ください。

[料金] 無料

[出演] 小鯖小学校おかあさんコーラス、コーラス隊“h.u.g!”、こうる・ソアーヴェ、ネーマ&ブランシェ&RYU、サース・ムーン、女声合唱花いずみ、野田学園幼稚園母の会コーラス部、木犀、にんげんしゅうだん音楽、ララ アンサンブル、コーラスCoCo、良城小PTAコーラス
特別出演:山口大学教育学部附属山口中学校2年生、一般公募による市民合唱団



企画展Ⅳ

「中也の住んだ町 京都」

2007年12月19日(水)～2008年4月20日(日)

大正十二年春、文学に耽りて落第す。

〔詩的履歴書より〕



中也(立命館中学3年)

中也16歳。一人京都・立命館中学校へと転入した中也は、その地で目まぐるしいほどの新たな出会いを経験します。古本屋で見つけた1冊の詩集、年上の女性との同棲、異国の香りを漂わす洒落た詩人、8回の引越、奇妙なあだ名「ダダさん」…。後に上京するまでのたった2年の間に、彼の「詩的履歴」を大きく揺るがす数多くの出来事がありました。本展では、16歳の中也が京都の町に残した足跡を、様々な資料でご紹介します。

第5回常設テーマ展示

「友情—
君と僕との命はかゞり」

2008年2月21日(木)～2009年2月15日(日)

中也は友達とどのようにつきあっていたのでしょう。はがきと切手を持ち歩き、街角から友達へ手紙を出していた中也。見込んだ友達の近くに引越し、朝も夜も訪ねた中也。そんな中也から逃げ出してしまう者もいましたし、中也を理解し支えた者もいます。友達、仲間、友人、親友…違う呼び方があるように、友情にも様々なかたちがあります。友情—確かなような不確かなような、家族とも男女のものとも異なる愛情。

このテーマ展示では、中也がどのように友達とつきあい、友情を結んだかをご紹介します。

中原中也記念館

【入館料】一般 ¥310 大学生 ¥210 小・中・高校生 ¥150 70歳以上無料

select CINEMA TECTONICS = 1

エドワード・ヤンと
クロード・シャブロール

2008年1月25日(金)～27日(日)

会場:山口情報芸術センター スタジオC

2007年6月に惜しくも亡くなったエドワード・ヤンを追悼して、遺作となった「ヤンヤン夏の思い出」を上映します。また、77歳にして第一線で作品を発表し続けている巨匠クロード・シャブロールの日本公開作品としては最も新しい作品をあわせて上映します。

【料金】各回¥700(入替制/100名)



©Moune Jamet

「ヤンヤン夏の思い出」

(2000年/173分/台湾・日本)

監督:エドワード・ヤン

出演:ジョナサン・チャン

ケリー・リー

イッセー尾形

1月25日(金) 13:30～

26日(土) 16:00～

27日(日) 13:30～

「石の微笑」

(2004年/107分/フランス・ドイツ)

監督:クロード・シャブロール

出演:ブノワ・マジメル

ローラ・スメット

1月25日(金) 19:00～

26日(土) 13:30～

27日(日) 17:00～

エドワード・ヤン(楊徳昌、Edward Yang)

1947年中国上海生まれ。2歳の時に台湾に移住。82年オムニバス「光陰的故事」で監督デビュー。代表作「恐怖分子」(89年)の発表以来、常に斬新で先鋭的な映像表現を旨とした。07年6月、59歳という若さで逝去。生涯での監督作品は7本しかないが、どの作品も注目を集め、多くの映画人、観客に愛された。

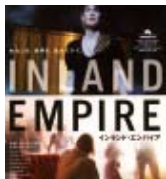
クロード・シャブロール(Claude Chabrol)

1930年パリ生まれ。映画評の執筆、映画制作などを手がけ、「美しきセルジュ」にて監督デビュー。興行的にも成功をおさめる作品を多く監督・制作し、一躍ヌーヴェル・ヴァーグの旗手となった。その後も、一時的に第一線を離れていた時期はあったものの、今日まで多くの作品を手がけ、その演出はより円熟味を増し、特にスリラーものに関しては、人間の心理状態に集中した巧妙な演出で、観客の心を捕らえて離さない。

コミュニティシネマ山口

会場:山口情報芸術センター スタジオC

[料金] 一般 ¥1,000 / any会員・学生 ¥800
ジュニア・シニア・障がい者と介護の 同行者1名 ¥500
※上映開始時間はお問い合わせください。



12月14日(金)~16日(日)

「インランド・エンパイア」

(2006年 / 180分 / アメリカ・ポーランド・フランス)

監督: デヴィッド・リンチ

出演: ローラー・ダーン、ジェレミー・アイアンズ



1月18日(金)~20日(日)

「クワイエットルームによこそ」

(2007年 / 118分 / 日本)

監督: 松尾スズキ

出演: 内田有紀、宮藤官九郎、蒼井 優、りょう
大竹しのぶ、妻夫木 聡



2月1日(金)~3日(日)

「サッド・ヴァケーション」

(2007年 / 136分 / 日本)

監督: 青山真治

出演: 浅野忠信、石田えり、宮崎あおい
板谷由夏、オダギリジョー

フェデリコ・フェリーニ監督作品

2月8日(金)~10日(日)

「道」

(1954年 / 115分 / イタリア)

音楽: ニーノ・ロータ
出演: アンソニー・クイン
ジュリエッタ・マシーナ

「甘い生活」

「甘い生活」

(1959年 / 185分 / イタリア・フランス)

音楽: ニーノ・ロータ
出演: マルチェロ・マストロヤンニ、アニタ・エクバーグ、アヌーク・エーメ



2月22日(金)~24日(日)

「いのちの食べ方」

(2005年 / 92分 / ドイツ・オーストリア / ドキュメンタリ)

監督: ニコラウス・ゲイハルター



オペラシアター-こんにやく座「セロ弾きのゴーシュ」関連上映

12月21日(金)~23日(日)

「銀河鉄道の夜」

(1985年 / 107分 / 日本 / アニメーション)

監督: 杉井ギサブロー アニメーション監督: 前田庸生

原作: 宮澤賢治 原案: ますむらひろし

脚本: 別役 実 音楽: 細野晴臣

[料金] 一般・学生 ¥700 ジュニア・シニア ¥500

12月22日(土)・23日(日)

山口市立中央図書館共同企画

「注文の多い料理店」

(1993年 / 19分 / 日本 / アニメーション)

演出・脚本: 岡本忠成 原作: 宮澤賢治

*山口市立中央図書館所蔵DVD

[毎日映画コンクール大藤信郎賞短編アニメーション全集1962~1997]より

[料金] 無料

YCAM 事業関連 上映

※上映開始時間はお問い合わせください。



ロダスギャラリー
「ガソリンミュージック&クルージング
in 山口」関連上映

12月7日(金)~9日(日)

「マラーノチェ」

(1985年 / 78分 / アメリカ)

監督: ガス・ヴァン・サント

出演: ティム・ストリーター、ダグ・クーヤティ

[料金] 上記の「コミュニティシネマ山口」と同じ



「Corpora in Si(gh)te」関連上映

1月11日(金)~13日(日)

「スケッチ・オブ・フランク・ゲーリー」

(2005年 / 84分 / ドイツ・アメリカ / ドキュメンタリ)

監督: シドニー・ポラック

出演: フランク・ゲーリー、デニス・ホッパー、シドニー・ポラック

「マイ・アーキテクト/ルイス・カーンを探して」

(2003年 / 116分 / アメリカ / ドキュメンタリ)

監督: ナサニエル・カーン 出演: ナサニエル・カーン、ルイス・カーン

[料金] 上記の「コミュニティシネマ山口」と同じ

©mk2/WISEPOLICY

財団各種情報・お知らせ

any(エニー)会員募集

「any」は、山口市文化振興財団が主催・共催する公演、ワークショップ、展覧会等の情報をいち早くお知らせし、よりいっそう楽しんでいただくための友の会です。欲しい公演のチケットが一般の人よりも安く、早く買えることができるなどの特典があります。あなたもこの機会にany会員になりませんか？

【入会金】500円 ※更新されるときは年会費のみ。ただし、会員期間内に更新されなかった場合は入会金をお支払いいただきます。

【年会費】1,500円

【会員期間】入会日から翌年の入会月末まで(更新するごとに1年延長)

【会員特典】財団主催・共催の公演チケットの先行予約および割引購入(公演によっては適用されないものもございます)、情報誌の無料送付、コミュニティシネマ山口・中原中也記念館招待券プレゼントなど

【申込方法】インターネット(www.ycfcp.or.jp)、お電話(TEL.083-920-6111)、窓口(山口情報芸術センター)のいずれかで会員登録手続きを行なうことができます。 ※詳しくはお問い合わせください。

財団主催・共催公演チケットのお求めについて

【予約方法】

■インターネット ▶ 山口市文化振興財団ホームページ

<http://www.ycfcp.or.jp> (要事前登録 24時間受付)

※any会員の方は先行予約開始日の10:00より、一般の方はプレイガイド発売日の10:00より受付開始。

■電話 ▶ チケットインフォメーション

TEL.083-920-6111

(10:00~19:00 ※火曜休み 火曜が祝日の場合はその翌日)

■窓口 ▶ 山口情報芸術センター

(10:00~19:00 ※火曜休み 火曜が祝日の場合はその翌日)

※先行予約初日はお電話またはインターネット予約のみの受付となり、窓口のご利用は翌日からとなります。

【支払方法】

■クレジットカード

インターネット・電話でチケット予約された際にご利用いただけます。チケットのお受け取りはお近くのセブンイレブンまたは山口情報芸術センターにお越しください。

■セブンイレブン

インターネット・電話でチケット予約された際に、お近くのセブンイレブンでお支払いいただけます。チケットはその場でお受け取りください。

■窓口 ※上記予約方法「窓口」参照

託児サービスのご案内

山口市文化振興財団では託児サービスを行なっています。

※おもちゃ、おむつ、着替え等必要なものはご持参ください。お子様の食事は事前に済ませておいてください。

■公演開催時

【対象】0才(6ヶ月)以上

【料金】お子様1人につき500円、2人目以降は1人につき300円

【時間】開演の30分前から終演後30分まで

【申込方法】公演日の1週間前までに左記チケットインフォメーションまたは山口情報芸術センターにてお申し込みください。

※公演によっては行なわない場合もございます。事前にお問い合わせください。

■山口情報芸術センター キッズスペース

【対象】1才以上

【料金】1人につき30分150円

【時間】13:00~17:00(山口市立中央図書館休館日を除く)1回2時間まで

【申込方法】当日山口情報芸術センターにてお申し込みください。

満員の際は順番制となります。

特別割引について(対象は山口情報芸術センター公演のみ)

山口情報芸術センターのみの販売となります。

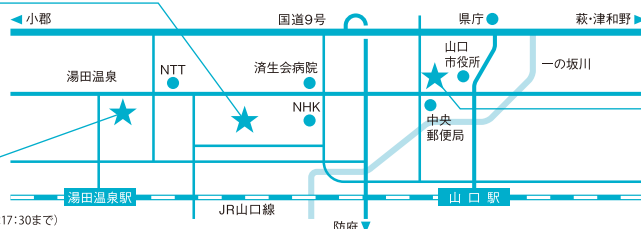
青少年(18歳未満)、シニア(65歳以上)、障がい者及び同行の介護者1名が対象。年齢の分かるもの、障害者手帳等をご提示ください。 ※当日券は割引の対象外

■山口情報芸術センター

〒753-0075 山口市中国町7-7
TEL.083-901-2222 / FAX.083-901-2216
開館時間 ▶ 10:00~20:00
チケット取り扱い時間 ▶ 10:00~19:00
休館日 ▶ 火曜(祝日の場合はその翌日)、年末年始

■中原中也記念館

〒753-0056 山口市湯田温泉1-11-21
TEL.083-932-6430 / FAX.083-932-6431
開館時間 ▶ [5月~10月] 9:00~18:00(入館は17:30まで)
▶ [11月~4月] 9:00~17:00(入館は16:30まで)
休館日 ▶ 月曜日(祝日の場合はその翌日)、毎月最終火曜日、年末年始



■山口市市民会館

〒753-0074 山口市中央2-5-1
TEL.083-923-1000 / FAX.083-928-8488
開館時間 ▶ 8:30~17:00
チケット取り扱い時間 ▶ 10:00~17:00
休館日 ▶ 年末年始

財団法人 **山口市文化振興財団**
Yamaguchi City Foundation for Cultural Promotion

〒753-0075 山口市中国町7-7(山口情報芸術センター内)
TEL.083-901-2222 FAX.083-901-2216
zaidan-info@ycfcp.or.jp <http://www.ycfcp.or.jp/>

[ars nova](アールス ノヴァ:ラテン語)
14世紀の音楽史用語で「新芸術」の意

アート弁当 コンテスト 出場者募集



【応募資格】どなたでも
(応募多数の場合は、審査します。)

【締め切り】12月15日(土)

※お弁当の写真を添えてご応募ください。応募方法の詳細はお問い合わせください。
当日は作ったお弁当を持参していただきます。



辛酸なめ子 Shinsan Nameko

1974年東京生まれ。武蔵野美術大学短期大学部グラフィックデザイン専攻卒業。独自の視点でマンガ、イラスト、エッセイ、小説など様々な媒体にて活躍中。キャリアの取材経験も有り。

meets the artist 2007 「編集ワークショップ」
公開対談シリーズ#3

「新春!アート弁当コンテスト」

2008年1月6日(日) 11:00~ 会場:山口市菜香亭 大広間

【料金】無料(申し込み不要)

【審査員】吉岡 洋(哲学者・京都大学大学院教授)、辛酸なめ子 ほか

<http://meets2007.ycam.jp>

「情報の編集」をテーマに哲学者吉岡洋氏と市民コラボレーターが活動している今年度の meets the artist。今回は色、味、栄養といった複数の情報を小さなハコの中に美しくレイアウトする「お弁当」をテーマに、公開コンテスト&審査をおこないます。審査員には、人気のエッセイスト、辛酸なめ子氏をお迎えします。コンテストの内容などは、随時 meets the artist のブログ(アドレスは上記)などで公開していきます。お見逃しなく!
今後は、今までの公開対談(1~3)の内容を編集し、本として出版する予定です。現在公開対談の準備と同時進行で、コラボレーターと吉岡氏との間で、デザイナーの選定やかどうかという編集の方法でまともていくやなど具体的な進められています。このプロジェクトの最終目標である本の出版について、詳しくは次号でご紹介します。お楽しみに。

YCAM身体とメディアワークショップシリーズ#2

Gainer ワークショップ

「HELLO!! フィジカル・コンピューティング」

2007年12月22日(土) 13:00~18:00

23日(日) 10:00~18:00(2日間通し)

会場:山口情報芸術センター 創作・学習室

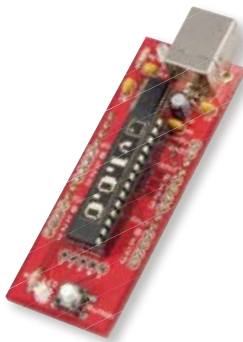
【対象】18歳以上(パソコンでのコンテンツ制作やプログラム開発などの知識を持っている方)

【定員】20名(要予約/先着順)

【参加費】¥7,000(Gainerキット代込)

【締め切り】12月20日(木)

【講師】小林 茂



コンピュータの入出力を制御する装置「Gainer(ゲイナー)」を使った、ユーザーインターフェイスについて考察するワークショップを開催。「Gainer」の開発者である小林茂氏をお招きして、様々なセンサーを使ってコンピュータを扱う方法について学びます。

YCAMの活動のコンセプトにもなっている身体とメディアとの関係性について分かりやすく理解できるほか、自分でコンピュータを使った作品をつくってみたいと思っている人、ダンス作品など身体表現にコンピュータテクノロジーを探り入れたい人などにも効果的なワークショップです。YCAMの展示作品にも利用されることのある「Gainer」を使って、コンピュータとの新しい付き合い方を開拓しよう!

小林 茂 Kobayashi Shigeru

ツールキットデザイナー(造語)。IAMAS(岐阜県立国際情報科学芸術アカデミー)准教授。1970年愛知県名古屋生まれ。93年より電子楽器メーカーに技術者およびシンセサイザーのサウンドデザイナーとして勤務した後、04年7月よりIAMASでフィジカル・コンピューティング等のレクチャーを担当。主な興味は電子楽器を含むユーザー・インターフェイス。最近の主な活動はツールキット「GainerとFunnel」。

【申込方法】葉書・FAX・e-mailにて、住所、氏名(ふりがな)、性別、生年月日(保険適用のため)、電話番号・e-mail等連絡先をご記入の上、下記へお申し込みください。

〒753-0075 山口市中町4-7-7

山口情報芸術センター ゲイナーワークショップ係

TEL.083-901-2222 FAX.083-901-2216

e-mail: gainer@ycam.jp

池田亮司

data.tron

data.film [n°1-a]

test pattern [n°1]

datamatics [ver.2.0]

data.film[n°1-a] ©Ryoji Ikeda



data.tron ©Ryoji Ikeda

池田亮司「datamatics」展

データマティックス

2008年3月1日(土)～5月25日(土)

12:00～19:00 ※土日は10:00～20:00、3/1はスタジオAのみ16:00閉館

会場:山口情報芸術センター スタジオA、B、中庭(予定)

入場無料

コンピュータによる先端的音楽表現を牽引する世界的な第一人者、池田亮司の新作インスタレーションによる世界初個展です。われわれの世界において、情報として立ち現れる以前に膨大に横たわる不可視のデータの海。その知覚化／美学化／形式化を探索するプロジェクト「datamatics」から、新作「data.tron」「data.film [n°1-a]」「test pattern [n°1]」(YCAM委嘱作品)、以上の3作品を同時公開します。

スタジオAのインスタレーションは、巨大なプロジェクション画面による「data.tron」で、35mmフィルムの実物再現の限界まで精緻に突き詰めた「data.film [n°1-a]」に

よる対極的な対比構成による空間になります。スタジオBは、今回のための新作インスタレーション「test pattern [n°1]」で、即物的な映像情報とサウンドの同期と変化による空間と知覚の実験的作品です。オープニングでは、音楽—映像における時間—空間と、われわれの知覚—認識との緊張関係を極限的な手法で追求するオーディオビジュアルコンサート「datamatics [ver.2.0]」(完全版)の日本初演がおこなわれます。これらは、YCAMとフランスのル・フレノア国立現代芸術スタジオ、ジョルジュ・ポンピドゥー国立芸術文化センターとの共同制作になります。

池田亮司 Ikeda Ryoji

可聴領域外も含めた周波数やサイン波を駆使し、コンピュータ上で音響デザインをおこなう“ミニマル音響派”を代表する先駆的アーティスト。1994年より作曲家として“ダムタイプ”の活動に参加。95年以降、コンサート、インスタレーション、レコーディングなどで国際的に活動している。伊東豊雄とのコラボレーションやカールステン・ニコライとのユニット“cyclo.”など領域横断的な活動も展開。06年6月、東京国際フォーラムにて音響／映像作品「C1」「datamatics」(「C1」はYCAM委嘱作品)を公演。現在パリ在住。

関連
イベント

オーディオビジュアルコンサート
「datamatics [ver.2.0]」
(完全版)

2007年3月1日(土)

19:00開場／19:30開演

会場:山口情報芸術センター スタジオA

[料金] 全席自由(200名限定)

前売 一般 ¥2,000 any会員／特別割引 ¥1,700

当日 ¥2,500

[チケット発売] 一般発売 1月20日(日)～

を探究しています。その主なツールが「フェイス」でも使われているような「コンピュータ」であり、それはほとんどメディアアートと不可分だと思います。彼ら建築家の関心はインタラクティブな分野にも移行しつつあり、その活動の場を情報空間内に位置づけている建築家に何人も出会ってきました。しかし保守的にみれば、建築はテクノロジーとコンピュータのコードによる作業を、たとえば外装や建築的壁面の構造計算といったものに利用し、現実的にどう適用させるかを考えてきたといえますが、ただ両者は、異なった目的を持っていて、その時に、異なる領域を共有していると言えるでしょう。

A 一般的にメディアアートは、受け手にコンテンツを伝えることができるといふ、表面的なインターフェイスを作り出すことにフォーカスしていると思います。あるメディアアーティストは、私たちになじみのある日常的な環境をコンテンツとして取り込み、メディア化することに注目しています。都市環境において、私たちはビルや橋、道路などの建築構造物に囲まれて生活しているため、必然的に周囲を取り巻く建築構造物をも最終的にメディア化しようとしていると言えるでしょう。建築家もまた、伝統的な建築を超えた手法で、構造物をより拡張しようとしています。その一つが、構造物のメディア化であり、その意味では、建築家とメディアアーティストの目ざすところ

は密接につながっていると思います。

もし(CS)がヨーロッパで展示されるとすれば、観客はどんな反応を
すると思いますか。

M 本展で用いられた多様なテクノロジーは確実に話題に上るでしょう。ヨーロッパ圏の人たちの多くは、テクノロジーにまつわる問題や危険性にとっても敏感で、このようなプロジェクトに対して少し批判的な気ができます。シンプルな家を建てるときですら、何世紀もかけて発展してきた様々な技術が導入され、その技術なくしては作ることができないにもかかわらず、そうですから。ヨーロッパの都市はアジアに比べてそれほど急速に変化をしていないので、観客はCorporaのダイナミックな特性に少し困惑させられるかもしれませんね。

A 「メディアアートと建築の融合」や「生成する建築」、「環境に呼応する建築」といったトピックスは、現在のヨーロッパでもホットな話題なので、Cの多くは多くの関心を集めるでしょう。Corporaのための特別な展示空間や、さらにその空間に反映していくCorporaは建設的な意見として受け入れられると思います。Corporaをめぐる議論は今後、いかに実用性を持つかが、生成された建築をどのように応用することができるかという方向へと変わっていくのではないのでしょうか。



マックス・ライナー Max Rheiner

(写真左)

ソフトウェア・アーティスト。メディア・アーティスト「Knowbotic Research」や「Stahl Stenslie」のソフトウェアエンジニアを手助け、アーティストとの共同作業も多い。プログラマーとしてだけでなく、電子工学のエンジニアとしても豊かな知識と経験を持つ。現在はチューリッヒ造形芸術大学勤務。スイス在住。

アコシュ・マローイ Ákos Maróy

(写真右)

ソフトウェア・アーティスト。ブダペストのメディア・アートシーンの中心を担うオープンラボ「Nextlab」のディレクター兼「Emergent Systems Research Institute」副社長。ネットワークのネットワークソフトウェアエンジニアリングに精通し、ネットワークオープンソース活動にも携わる。人工生命の分野で博士号を持つ。ハンガリー在住。

ダブルネガティブス・アーキテクチャー

「Corpora in Si(gh)te(コーポラ・イン・サイト)」

開催中～2008年1月13日(日) ※火曜および12/27～1/3日休館
12:00～19:00

会場: 山口情報芸術センター スタジオB、ホワイエ、中央公園
入場無料 <http://corpora.ycam.jp/>

「パスタ建築ワークショップ」

2008年12月8日(土)・9日(日)(1日で完結) 各日14:00～17:00
会場: 山口情報芸術センター 創作・学習室

設計図は全く使わず、普段は食材として使われるはずのパスタで建築構造物を組み立てるちょっと変わったワークショップ。

[対象/定員] 小学4年生～中学3年生/各回12名

[参加費] ¥500 ※申込方法など詳しくはお問い合わせください。

関連
イベント

環境と対話する、生きている建築。

都市のニュータイプな考え方



従来の空間表記法に抛らない独自の表記法や、実映像とプロセッシングによるウェブ上の映像をオーバーラップさせた技術の導入など、コンセプトや表現において多層／多角的なアプローチによる斬新なプロジェクト。

既存の概念にとられない新しい視点で、空間や環境のコンセプトを提案し続けている建築ユニット「ダブルネガティブ・アーキテクチャー(DNA)」。彼らが、ほぼ10年にわたり展開してきた「Corpora(コーポラ)」プロジェクトの最新インスタレーションが、現在YCAMおよび中央公園にて公開されています。展覧会では、実際にYCAMおよび中央公園に設置された多数のセンサーをリアルタイムで気温や明るさ、人の起こす音量などの環境情報を計測。それらの情報をセンサー同士が相互に伝達し合い、仮想の3次元建築として自己組織的に建築物を構築していく様子を、インタラクティブなインスタレーションで見ることが出来ます。

今回は、本展に関わる6名の精鋭メンバーのうち、ソフトウェア開発を手掛けるマックス・ライナー氏(以下M)と、人工生命の専門家の立場からアルゴリズムとネットワーク技術に関するアドバイスをこなってきたアコシユ・マロイ氏(以下A)のお2人に、YCAMでの滞在制作についてうかがいました。

「Corpora in Si(gh)te」
で2週間滞在されましたが、制作を終えての印象はいかがですか。

M Corporaプロジェクトは、様々なテクノロジーを駆使し、とても重要なコンセプトを扱った意欲的な試みです。3番目のバージョンとなる今回の展示は、YCAMの素晴らしいサポートを受けて制作するという意味で、斬新で建設的な経験になりました。

A GISは、これまでのCorporaプロジェクトから大きく進化しています。(中央公園とYCAMの屋根にワイヤレスのメッシュネットワークセンサー40基と2つのステーションを設置して、明るさ、風、湿度、気温、音の環境情報に対して非常に細やかに反応することが可能になりました。また、今回、オーギュメントッドリアリティ(強化現実)と呼ばれる技術

を導入し、現実とヴァーチャルの世界を重ね合わせた映像を、モニター越しに見ることで、Corporaが生成する様子をより分かりやすく伝えることができました。スタジオBでは、この構造物を内部から見た視点を楽しめます。



中央公園に設置されたセンサー

メディアアートと建築の関係性についてはどう思われますか。

M 今日では、両分野を含む共通の領域があるように思います。建築家は、時間と空間を扱い、様々な形を作り出す新しい方法とそのデザイン

any

ars nova yamaguchi

[エニー]

Vol. 63

07-08

WINTER
[DEC-FEB]

TOPICS

環境と対話する、生きている建築。

都市のニュータイプな考え方

ダブルネガティヴス・アーキテクチャー「Corpora in Si(gh)te」

コーポライン・サイト